

＼！もっと！／

デジタル教科書活用術

超しおりの使い方 2

基本的な使い方

超しおり機能では、同一ページ内やコンテンツ内の複数の状態を保存することができます。また、超しおりは時間順に記録されていきます。

この機能を利用して、授業準備の段階で説明のステップごとに書き込みや操作をし、超しおりを作成しておけば、授業では超しおりを順に表示することでスライドショーのように見せたい場面や書き込みを見ることができます。



また、同様に同じ紙面やコンテンツに書き込む例として、複数の意見や答案などの書き込みを何パターンも保存するという使い方もあります。

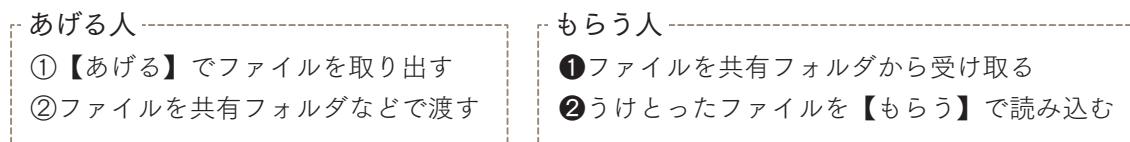
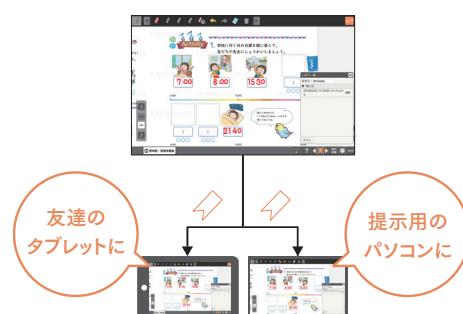
やりとりをする

超しおりには、【あげる】【もらう】という機能があります。

【あげる】: 超しおりの情報を「.ark」という形式のファイルに書き出す。

【もらう】: 超しおりのファイルを読み込む。

超しおりのファイルを共有フォルダやクラウドストレージなどで受け渡しすることによって、同じ教科書を使用する先生や友達と超しおりに保存した情報をやり取りすることができます。



2022年春公開の超教科書ビューア（バージョン1.3.0以降）では、バインダー機能でもしおりが利用できるようになりました。これにより、バインダー上で作成した自作の教材を児童・生徒に共有することができるようになりました。

